

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

平成 26 年 3 月 23 日～3 月 31 日までの 9 日間、1 年生 29 名がアメリカ合衆国のボストンでホームステイをしながら、午前中はノースイースタン大学の語学学校である Kaplan で他国の留学生と英語のレッスンを受けた。午後は、ノースイースタン大学、マサチューセッツ工科大学、ハーバード大学、イエール大学の学生によるキャンパスツアーに参加し、それぞれの大学や大学院で学ぶ学生からレクチャーを受けた。

実施概要について

24 日から 28 日までの 5 日間、午前中はノースイースタン大学の語学学校である Kaplan ダウンタウンキャンパスで、他国の留学生を含む少人数制のクラスで英語のレッスンを受けた。午後は、ボストンにある大学でキャンパスツアーに参加し、大学や大学院で学ぶ学生からの講義を受けた。午後の日程については以下のものであった。

24 日：ノースイースタン大学でキャンパスツアー

25 日：マサチューセッツ工科大学（MIT）の食堂で MIT の学生やスタッフと英語でコミュニケーションをしながら昼食

MIT 大学院にて経済学を学ぶ成田さんによるキャンパスツアー

26 日：MIT の大学院で経済学を学ぶ古川さんによる環境エネルギーについての講義
ボストンで企業家として活躍する松川原さんによる 21 世紀に生きる若者の将来の可能性についての講義

27 日：ハーバード大学院の School of Public Health で学ぶ林英恵さんによる「自分の未来が楽しみになる心の持ち方と夢の描き方」についての講演
福島の現状についてのプレゼンテーション

（Kaplan の留学生や先生などに事前に呼びかけを行い、20 人程の聴衆に対して）プレゼン後、他の国の人からみた福島についての意見が聞きたいと「ディスカッション大会」を企画し、実行した。

ハーバード大学で学ぶジャスティンさんによる英語でのキャンパスツアー

28 日：ボストンでの班別自由行動としてボストンの街を観光しながら、英語で現地の人とコミュニケーション

29 日には、ボストンを出て、ニューヘイブンにあるイエール大学へ移動し、イエール大学大学院の研究員の蛭子さんと日本人学部生の方 2 名による「アメリカの大学と日本の大学の違いについて」や「留学について」の講義を受けた。その後、イエール大学生による英語でのキャンパスツアーに参加し、積極的に質問などをした。

ニューヨークへ移動し、現地で活躍されている福島県人会の方々との座談会を行った。3 人の方からアメリカの活動について話をしていただいた。その後、研修 5 日目に現地の学生に対して実施した、福島の実況についてのプレゼンテーションを見ていただいた。



福島現状発信や現地におけるエネルギー学習について

マサチューセッツ工科大学の大学院で経済学を学ぶ古川さんによる環境エネルギーについての講義を受けた。古川さんは経済学の観点から、さまざまな取り組みの効果について検証することについて、ご自分の研究を参考に話して下さい。まず、環境問題を研究するとはどのようなことかを統計学的なアプローチから説明して下さい。次に、自身がウガンダで行った、灯油ランプと太陽光発電を使ったときの子供の学力への効果についての研究について話して下さい。第3に、福島で行われた子供の遊び場の利用が子供の精神的健康に与える効果についての検証を研究された内容について話して下さい。環境問題の研究というと、科学技術の研究が直接的に思い当たるが、経済学に政治学に教育学とさまざまなアプローチがあることを教えて頂き、一見効果があるように見える政策について実証研究の必要性を学ぶことができた。

実施後の反省について

研修全体を通して、積極的なコミュニケーションをするために必要なことや、国際的に学習すること研究すること、仕事をするための具体的な姿を目にすることができ、将来について考える大きな経験となった。高校でさまざまな分野を学習する意義や、英語をコミュニケーションツールとして使うために自分に不足していることを実感し、今後の学習意欲につながっていくと考える。また、福島県の現状を発信するプレゼンテーションの事前準備では、日本語で伝えることと英語で伝えることの違いから、その文化の違いにまで考えを深めることができ、他者へ伝えるための言語表現についても学習する機会となった。プレゼンテーションと外国人とのディスカッションより生徒は大きな達成感を感じることができ、この取り組みから生徒は良い刺激を受けることができた。